
仮面ライダーツイン

薫月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダーツイン

【Nコード】

N9951L

【作者名】

薫月

【あらすじ】

Wと、同じ世界・同じ時系列の別の街の二人で一人の仮面ライダーです。

【ガイアメモリ】等の一部の設定以外は、オリジナルです。星の本棚も出てきません。

そのうちWと共闘させるつもりです。

「さあ、あなたの罪を懺悔しな！」

【第一話】Tのお告げ／HEROは二人で一人（前書き）

24時間様々な光であふれる街『光都』そんな光にあふれている街にも、闇はある。

その日、私と相棒の【左久間俊介】は、連続強盗事件の犯人を追いかけていた。

私たちの後には、犯人によって投げ飛ばされた車が転がっている。

犯人は【ドーパント】と呼ばれる怪物。

【ライブラリー】という組織によって、この街にばらまかれている【ガイアメモリ】というUSBメモリ状の物を使って、人間が変身した姿。

犯人が、逃げ込んだ建物に私たちも突入する。

刹那、とてつもない衝撃で私たちは、吹っ飛ばされた。

建物の壁を突き破り、隣の建物に入ったようだ。

辺りを見回すと、教会だった。

直ぐ傍には、今にも死にそうな俊介が横たわっていた。

「明奈…逃げる…」

「私に、もっと力があれば…私は、俊介に守られてばかりだ」

恋人でもある俊介の死に私が泣いていると、「あなたが望むなら力を授けます」声が聞こえた。

見上げると、シスターが立っていた。

シスターは、持っていたアタッシュケースから、漢字の三の様な形をしたバツクルを取り出すと腰に付け、手に一般のものとは形の違う白いガイアメモリを持った。

「罪を背をう覚悟…出来てますか？」

シスターの問いに無言で頷くと、私もバツクルを付けた。

手渡された黄色のガイアメモリをバツクルの右スロットに入れる。シスターもメモリをバツクルに入れる。次の瞬間、私とシスターは

Tの角を持つ身体の右半分が黄色、左半分が白、赤い大きな目をしたドーパントに変わっていた。

【第一話】Tのお告げ／HEROは二人で一人

- 1年後 -

窓から、まばゆい日差しが舞い込む。

頭の上にある目覚ましを見た私は、「やばっ！何でならないの？」
遅刻する」

時計の針は、7：50を指していた。

壁にかけてあるダークスーツに慌てて着替えると、家を飛び出した。
職場である【光都署捜査二課】に到着した私に「右野さんなに息切
らしてるんスか？」

と、後輩の【轟走丞】が声を掛けた。

「別に…」

そう答えながら、さっきの事を思い出していた。

10分前

いつも乗るバスにタッチの差で行かれてしまったので仕方なく全力
疾走していると、妙に印象に残る女の子とすれ違った。

歳は高校生くらいだろうか、腰まで伸びた髪が風になびいている。

それととてもいい香りがした。

その香りが印象に残ったのだ。

「会議始まるッスよ」

走丞が言った。

「一昨日の繁華街での殺人事件だが…どうやらガイアメモリが絡ん
でいるらしい。不可解な点が多すぎる事がわかった。まず被疑者は
暗がりとはいえ人通りの多いところで犯行に及んでいるが、目撃者
がいない。それと被害者の首に紐のような物で絞められた跡がある
が無数の棘のような跡もある。皆、ドーパントの線も含めて捜査に
当たってくれ！」

「はい!!」

課長の言葉に皆が一斉に返事をする、部屋から出て言った。私が机に向かうと後から走丞が「僕らも行きましょうよ」と、声を掛けてきた。

「目撃者がいないなら、犯人をある程度絞ってから動いた方が効率いいでしょ」私が答えると、走丞もメモをしてある手帳を見る。

「今月だけで同様の事件が3件も起きてますね。」

「そう。しかも被害者はテレビ番組のプロデューサーばかり…」

走丞の言葉に、パソコンで情報を整理しながら答える。

「ゴメン。ちよつと出てくる!」

私は、情報のなかに気になるものを見つけて部屋を出た。

「待ってくださいよ」

走丞が追って来る。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9951/>

仮面ライダーツイン

2010年10月10日16時03分発行